

ハナモモ新品種‘照手姫’の育成経過と特性

堀越禎一・佐野嘉子・岡部 誠*・山崎和雄**・高橋栄治***

Teiichi HORIKOSHI・Yoshiko SANO・Makoto OKABE・
Kazuo YAMAZAKI and Eiji TAKAHASHI

New broomy flowering peach cultivars, ‘Terutehime’

I 緒 言

ハナモモは代表的な春の花木として古くから親しまれ、日本の伝統行事にも欠かせない花となっている。しかし、その利用は切り枝が中心で、庭木や緑化木としての利用は多くない。その理由の一つに樹形が開張性で限られた空間の植栽に適さないことが上げられる。ほうき性樹型の園芸品種に‘箒’があるが、樹勢や着花性が劣り花色も白地に目立たない淡桃色の細かい絞りが入るもので、観賞性に優れずその利用は少ない。そこで、筆者らはモモの遺伝特性を利用して(1,2,3)花色等の改良をはかり、ほうき樹型で鮮やかな紅色花(照手紅)、桃色花(照手桃)、白色花(照手白)の品種を育成しすでに報告した(4)。

その後も育種研究の中で獲得した優良系統について調査を継続し、花の形質や着花性などに優れた特性が認められる個体を選抜、種苗登録申請を行い、このほど内定公表されたので、その育成経過と特性について報告する。

なお、当品種の育成は、貴重な育種母材の提供に負うところが大きく、ご協力いただいた当時の農林水産省果樹試験場金戸橋夫元育種部長、並びに西田光夫元育種第3研究室長を始め関係各位に厚くお礼申し上げる。

II 育成経過

1973年に農林水産省果樹試験場よりハナモモ‘箒’を片親とした1代雑種、7組み合わせ計30個体を導入した。そのうち‘箒’の自然実生個体で普通樹型の7個体より1975年から1978年にかけて自殖採種したF₂苗119個体を得た。このうち、ほうき性で八重咲きの18個体を1次選抜し、この中から花着きが良く、花色が淡桃で花の形質が優れた個体を選抜し、接ぎ木及び挿し木で増殖、育成した結果、選抜個体と差異がなく安定した形質と認められた。

その後栽培調査を継続する中で、すでに種苗登録されている‘照手桃’等にはない優れた特性が認められたこと、近年切り花や鉢物で人気の高い淡桃花色であることから、1991年‘照手姫’と命名し、種苗法による種苗登録を出願、1992年12月に内定公表された。

*現 農業大学校

**現 農業技術課

***元相模原分場

第1表 育成品種と‘照手桃’の特性比較

品種名	育種母材の 交雑組合せ	花 色 *	花弁数 枚	花 径 mm	着蓄数 **	葉 色	開花期
照手姫	箒OP	淡紫ピンク (JHS9202)	28.6	42.4	21.8	緑	照手桃より やや早い
照手桃	箒×赤枝垂	鮮紫ピンク (JHS9504)	22.1	43.8	3.2	緑	

* 花色は日本園芸植物標準色票による

** 着蓄数は枝の先端から30cmの花芽数

Ⅲ 育成品種の特性と利用

(1)樹型はほうき性で、‘照手桃’に比べ枝が乱れにくく、やや小柄で樹姿は整いやすい。

(2)樹勢は中庸で‘照手桃’と同程度であるが、枝梢の伸長停止時期がより早く、花芽の分化時期(7~8月)以降の伸長がないことから花着きは‘照手桃’より優れ、枝の先端まで花芽の着生が見られる。

(3)花は大輪八重咲き(花径40~45mm, 花弁数30枚程度)で、花径は‘照手桃’と同程度、花弁数は‘照手桃’より多い。

(4)花色は淡桃色(淡紫ピンク JHS9202)で‘照手桃’の花色(鮮紫ピンク JHS9504)よりも淡い。開花期は‘照手桃’よりやや早く(約4日)、また萌芽始めが遅いため、満開期まで葉芽が目立たない。

‘照手桃’などと同様、庭木だけでなく、公園樹や街路樹、また、枝物としての利用が期待されるが、樹型がやや小柄で枝の先端まで花芽の着生が良好なことから、特に季節感を演出する大小の装飾用花木鉢物としての利用が期待される。

Ⅳ 命名の由来

淡い花色とやや小柄な樹型が‘照手桃’などに比べ可憐であることと、育成地(神奈川県相模原分場)相模原市横山にゆかりの照手姫伝説にちなみ‘照手姫’と命名した。

Ⅴ 引用及び参考文献

1. 高橋栄治, 岡部誠, 山崎和雄, 吉田雅夫, 京谷英寿. 1981. ハナモモの育種に関する研究(第1報)しだれ性とほうき性の遺伝. 園学要旨昭56春. 358-9
2. 高橋栄治, 岡部誠, 山崎和雄, 吉田雅夫, 京谷英寿. 1983. ハナモモの育種に関する研究(第2報)花色と花弁の重なり方の遺伝. 園学要旨昭58春. 288-9
3. 山崎和雄, 岡部誠, 高橋栄治. 1987. ハナモモの諸形質の遺伝並びに新系統の育成. 神奈川県試研報. 34: 46-53
4. 山崎和雄, 岡部誠, 高橋栄治. 1987. ハナモモ新品種‘照手紅’‘照手桃’‘照手白’の育成経過と特性. 神奈川県試研報. 34: 54-6

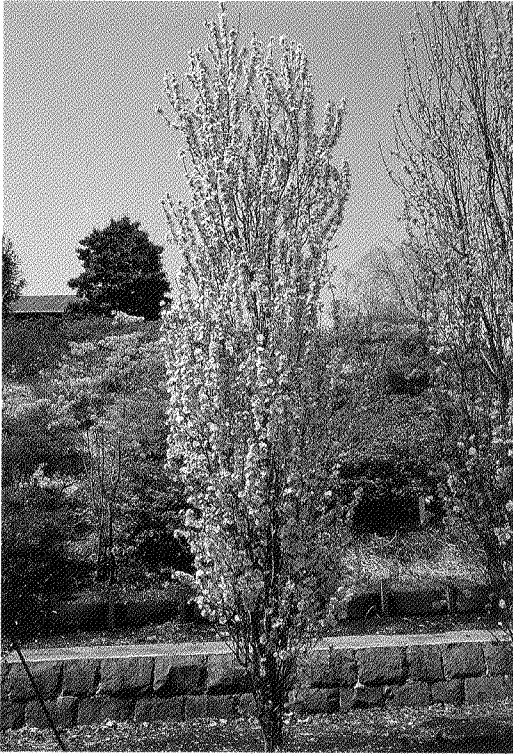
Summary

New, broomy flowering peach cultivars, called ‘Terutehime’, were bred at the Sagami-hara Branch of the Kanagawa Horticultural Experiment Station.

The ‘Terutehime’ was selected from among the F2 plants of ‘Houki’ open pollination. It is pale pink in

color and double flowered. This variety is suitable for gardens, roadside planting, potting, as well as cut flowers.

[‘Houki’: broomy type; variegated and double flowered.]



1) ほうき性ハナモモ‘照手姫’



2) 花色は淡紫ピンク (JHS9202)



3) ‘照手姫’ (左)と‘照手桃’の枝先端部の着花状況



4) 左から‘照手姫’ (1株) ‘照手桃’ ‘照手紅’
‘照手白’ (各2株)

